

編集後記

無得庵刀耕老居士は、人間禅の『立教の主旨』は剣道の極意だ。剣道をする人は、一日に一度は読んで深く突っ込むようにと話しておられました(『剣道話』)。

『立教の主旨』に、【人間禅は、正しく・楽しく・仲よく 人間味豊かな人々の家庭である。】とあり、耕雲庵英山老師は、居士の資格の一つに「家庭に住して生活の円満なること」を上げておられます(『観音経講話』)。「修身齊家(家庭をおさめ整えること。)治国平天下」は、人間形成の常道であります。世界楽土づくりは、まず足元のわが身から、わが家の茶の間から始めたいものであります。

長谷川平記剣道範士(禅歴30年)のお話です。【試合は心の鏡の写し合いである。己の心が曇っていても相手の心の真実は写らない。誰も森羅万象ありのままを見る心眼を養いたいと思う。とりわけ人を見誤らないことは、人生において最も大切なことではなからうか。】【坐禅も剣道も、目的ではなく手段に過ぎない。坐禅を組まずして組んだ人を超え、剣を学ばずして高段者に勝る人の多いことを忘れてはならない。】【修練の場における強さを人間の強さとして体得せねばならぬ。しかるに、修練の場を離れたとき、酒や金に足を取られたり、かよわい女性に背負い投げを食ってしまう^{やから}の何と多いことか。】(『現代剣道家百家^{しん}蔵』)。

合掌 編集子

禅34号 (通巻214号) 定価500円(税込)

平成23年9月25日発行

編集人	中村	孝
発行人	佐瀬	長和

発行 人間禅出版部
 〒272-0827 千葉県市川市国府台6-1-16
 人間禅本部道場内
 ファックス 047-373-7561
 Eメール zenshi@ningenzen.org
 ホームページ <http://www.ningenzen.org>